

## 子ども憲章（素案）に対する 市民意見の概要及び市の考え方

### 【意見の反映状況】

1：既に記載済                      2：追加・修正あり    3：今後の参考とするもの  
4：追加・修正なし                5：その他

番号	意見の概要	市の考え方	反映状況
<b>子ども憲章 全体</b>			
1	<p>大人は、自分たちがそうしてもらってきたように、これから未来を生きていく子どもたちが健やかに育つ環境をつくって、引き継いでいく責任があると思うが、そういうことを忘れがちなので、このような「呼びかけ」があるのはよい。10人いたら10人の考えがあるので、満場一致の言葉を選ぶことは不可能だと思うし、そこに労力をかける意味はない。</p> <p>要は、子どもが健やかに育つ環境をどうやって大人が作っていくかを考え、行動するきっかけになればよいと思うので、市としてこういったものをつくる姿勢を示すことに意義がある。</p>	<p>ご意見のとおり、こどもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでまいります。</p>	1
2	<p>時間をかけてでも、策定することに意義があると思う。</p>		1
3	<p>大変 素晴らしい素案でこれが実現できればいうことない。私たちが子どもだった頃は、ご近所の方々の優しい声かけや、時にはお叱りと寄り添ってくれたが、今はそれも難しくさみしいこと。</p> <p>市民憲章に「人を大切にし ふれあいの輪をひろげます」「元気で働き 明るい家庭をつくります」とあるように、まわりの大人がゆとりを持って、こどもと接することができたら、ベスト。</p> <p>高齢化率のとても高い地域の子育てサポーターとして、乳幼児と関わり、数少ない子どもたちに元気をもらっている。</p>		1
4	<p>子ども関係では、いろんな組織が似たようなもの（〇〇10か条、〇〇憲章とか）を作っていて、新しいものを作るとなると、既存のものとの違いや住み分けなどを、既存の勢力から言われがちだが、根っこの気持ちは同じと思うのできっちり住み分けできなくて当たり前だと思う。いっそ、「北九州市はこども憲章的なものが100個もあります」というのだっていいと思う。話し合うことが大切だと思うので、今回の憲章づくりをきっかけに、子どもから大人まで意見を交わしているのは良いと思う。</p>		1

5	<p>子どもがどんどん減っていく中、「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環をつくっていくためには、子どもを取り巻く環境について、子ども、大人、未婚、既婚、子どもの有無などに関わらず、すべての市民が関心を持ち、関わり、シームレスにこの社会について考えていかなければいけないと感じている。</p> <p>そういった中、この憲章が、地域社会全体で子どもと関わり、育てるという気運醸成の一つになるのであれば、とても良い取組だと思う。</p> <p>あとは、どう市民に周知していくか、一体となって取り組んでいけるかが鍵になるのではないかと。</p>	<p>ご意見のとおり、素案は、包摂性と寛容性をもって、地域社会全体で子どもに関わり、育てるという気運を高めていくことを目的としています。これには、子育てに関わっているかどうかにかかわらず、地域で暮らしている一人一人が、自分にも関係することと捉えることが必要だと考えています。このため、幅広い世代・立場の市民の皆さまにわかりやすく伝わるよう周知に取り組んでまいります。</p>	1
6	<p>この「にこにこスイッチ」を北九州市の「子ども憲章として」位置付けるなら反対。子ども憲章という枠に留まらない大人側のアクションとして積極的に位置付けるなら特に異論はない。「子ども憲章」は、特に明確な定義があるわけではないが、子どもの権利条約をはじめとする「子どもの権利」論に根ざした憲章であるという点は、社会一般の共通した認識であろうと考える。「にこにこスイッチ」は、子どもの権利論を踏まえたものというより、子育てや社会の中で子どもに向き合う大人側の最低限の心構え・姿勢（アクション）を醸成するためのムード作りという側面が強いと感じるため、子ども憲章としてはあまりに異質である。</p>	<p>素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指して編成をしています。こどもは多様な経験や体験を通じて、自ら育つ主体であり、その個性や可能性が尊重されるべきであるという、こどもの本質を前提に、大人が今一度、原点に立ち返り、こどもに対するスタンスを共有するものと考えています。ご意見も踏まえ、位置づけについてよりわかりやすくなるようにいたします。</p>	3
7	<p>子育てや社会の中で子どもに向き合う大人側の最低限の心構え・姿勢（アクション）を醸成するためのムード作りという政策自体は、尊重されるべきであるが、このにこにこスイッチを「子ども憲章」として位置付けて公表した場合、子どもの権利論はあまりに意識しない、大人側へのアクションに働きかける内容となっているため、子どもの権利保障のために日々奮闘している方々からの反発が容易に予想される。内容は、子どもの権利論を踏まえないばかりか、特に「諭す」という表現に表れているように、子どもを「保護の客体」として扱っている点で子どもの権利論と根本的に相容れないものと捉えられかねない。</p>	<p>素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指して編成をしています。こどもは多様な経験や体験を通じて、自ら育つ主体であり、その個性や可能性が尊重されるべきであるという、こどもの本質を前提に、大人が今一度、原点に立ち返り、こどもに対するスタンスを共有するものと考えています。ご意見も踏まえながら、今後の取り組みを進めてまいります。</p>	3
8	<p>「にこにこスイッチ」を公表するにしても、「子ども憲章」としての位置付けではなく、それを越えた発展的な政策アクションとして公表された方がより良いのではないかと。</p>	<p>素案は、包摂性と寛容性をもって、地域社会全体で子どもに関わり、育てるという気運を高めていくことを目的としています。ご意見も踏まえ、位置づけについて、よりわかりやすくなるようにいたします。</p>	3

9	<p>現在、北九州市では、子ども基本条例の議論も並行して進んでいると聞いている。そうであるならば、例えば、子ども基本条例は、子どもの権利を規定する文書、にこにこスイッチは、子育てや大人のアクションに関する文書と交通整理できれば、全体としてバランスが良いのではないかと考える。</p>	<p>素案は、包摂性と寛容性をもって、地域社会全体で子どもに関わり、育てるという気運を高めていくことを目的としています。ご意見も踏まえながら、今後の取り組みを進めてまいります。</p>	3
10	<p>全体を通して、子どもは考えや行動が未熟な存在で、大人が考える良い方向へ導く行動指標のように受け取れる。子どもが人格を持った存在として表現されると良いと思う。</p>	<p>素案は、子どもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指して編成をしています。子どもは多様な経験や体験を通じて、自ら育つ主体であり、その個性や可能性が尊重されるべきであるという、子どもの本質を前提に、大人が今一度、原点に立ち返り、子どもに対するスタンスを共有することを目指しており、「子どもの視点を大切にする」、「子どもを社会を構成する存在として尊重する」という、「こどもまんなか」の趣旨に沿ったものと考えています。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。</p>	3
11	<p>子ども憲章はこどもまんなかの視点でつくられるものだと思う。素案のアクションは子どもに対してどのようにするか大人側のことばかりで、もともとの趣旨と少しずれているのではと感じた。もっと『誰もが』『みんなが』『こどもまんなか』の考えがもっとわかりやすくなるのではないのではと考える。</p>	<p>素案の策定においては、「みらい政策委員会」として選定をした小・中学校でのワークショップや小・中・高・大学生が参加したシンポジウムなどにより子どもとも意見交換を行ってきました。5つのアクションは、意見交換の内容も踏まえて編成しています。</p>	3
12	<p>策定において、肝心のこども視点が入っているのか。</p>	<p>素案の策定においては、「みらい政策委員会」として選定をした小・中学校でのワークショップや小・中・高・大学生が参加したシンポジウムなどにより子どもとも意見交換を行ってきました。5つのアクションは、意見交換の内容も踏まえて編成しています。</p>	1
13	<p>子ども（こども）に対する、いわゆる大人の視点が基本にあるのではないか。</p>	<p>素案は、子どもは多様な経験や体験を通じて、自ら育つ主体であり、その個性や可能性が尊重されるべきであるという、子どもの本質を前提に、大人が今一度、原点に立ち返り、子どもに対するスタンスを共有するものと考えています。大人が、自分自身に問いかけ、具体的な行動につなげる「合言葉」となるよう、取り組んでまいります。</p>	3
14	<p>現実に子どもが抱えている虐待やいじめなどの問題に、大人がどのように寄り添い行動すべきかについても良いと思う。</p>	<p>素案は、子どもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指して編成をしています。日常生活で子どもと接するさまざまな場面、状況におけるアクションとしていますが、前文に記述しているとおり、大人の自分が、子どもたちにできることはなにか考え、行動するという趣旨であり、こうしたなかで、虐待やいじめなどについても考え、行動を起こすことができるよう、取り組んでまいります。</p>	1

15	「やさしく見守る」「やさしい笑顔を向ける」ことよりも、こどもの気持ちになって考え、関わるのが大事なのではないかと感じる	素案は、「こどもの視点を大切にす る」、「こどもを社会を構成する存在として尊重する」という、「こどもまんなか」の考え方を踏まえたものであり、ご意見の趣旨に沿ったものと考えています。	1
16	「こどもまんなか」とても良い。大人が子どもに対して、また子どもが大人に対して、お互いに尊重し合うことの大切さ、また、感謝の念を抱き合うことに繋がる文例がより分かると良い。	ご意見のとおり、大人からこども、こどもから大人、こども同士や大人同士など幅広く行動が実践されることで、思いやりのあるまちになると考えています。このため、幅広い世代・立場の市民の皆さまにわかりやすく伝わるよう周知に取り組んでまいります。	1
17	思いやりやさしさをもつことは大切だと思ったが、子どもにもできることをつくっていった方が良いと思う。(大人目線)	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指して編成をしています。が、大人に限らず、人と接するとき、行動として実践できるものだと考えています。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
18	「大人バージョン」だけでなく「こどもバージョン」の合言葉も作成してはどうか。 例：1 私の周りの人は、みんなにここがいいです 2 私は、大人に上から見られるとドキドキします。言いたい事が言えません 3 私も言いたい事があります。聞いてください。そして、私にとって大切なことを教えてください 4 私たちに子どもは、一人一人育つ環境が違います。家族も一緒に守ってください。 5 「ありがとう」私は大好きな言葉です	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、こどもに対して、行動を求めるということは考えていませが、ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
19	「こども」は赤ちゃん、幼児、小学生、中学生なのか対象が分かりにくい。	素案は、小さなこどもにも理解できるよう、やさしい言葉で編成をしています。が、対象となる年齢は限定していません。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
20	「こども」の定義はどうするのか。	素案は、小さなこどもにも理解できるよう、やさしい言葉で編成をしています。が、対象となる年齢は限定していません。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
21	「子ども」「こども」の表記の区別に違和感を感じる。		2
22	タイトル「子ども憲章」で、本文は「こども」との表記の違いに違和感がある。「子ども」とするのか、「こども」とするのか。	ご意見を踏まえ、「こども」の表記に統一するよう修正します。	2

23	全ての初めの文字を縦であわせて暗号みたいにしたらおぼえやすいと思った。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、日常生活で思い出していただけよう、広く浸透することが重要であると考えています。伝えたい内容に適した言葉を選択していることから、縦読みにあわせて言葉をつくってはいたませんが、市民の皆さまが覚えやすいものとなるよう、ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
24	とてもいい。こどものために思っているのが伝わってきた。実行しやすそうでとてもいい。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
25	とても良い案だと思った。		1
26	こどもも大人のことも考えて作っているというところが良い。		1
27	こどもだけでなく、こどもを育てている人間にも言葉を伝えるのが良い。		1
28	こどもや子育てなどを行っている人に寄り添ったり、支えたり、また、こどもも大人も同じ目線で社会に向き合うような言葉がすごく良い。		1
29	こどもたちが笑顔になれそうで良い。		1
30	いいと思う。		1
31	みんな心からいっているみたいで良い。		1
32	分かりやすい。		1
33	こどもみんなが笑顔になれるいいものだと思った。		1
34	大人も子供も平等な関係がつかれるような取り組みになっている。また、平等でありながらもみんなが安心して生活できるようになっている。		1
35	大人がどんどんこのことをしていき、こどもたちが明るく笑顔がいっぱいになっていくと良い。		1
36	大人が笑顔で接することで、こどもだけでなく大人も自然に笑顔になると思ったので良い。		1
37	とても良いと思った。アクションをおこすことで、子どもから大人まで、全員が笑顔になるし、子どもの周りに笑顔が絶えない北九州市になると思う。		1
38	覚えやすくて、自分でもできそうでいいと思った。		1

39	子どもの生活する環境が良くなるので良いと思った。		1
40	子どもを中心的に考えられていて良いと思う。		1
41	子供のことも大人のことも考えられていてとてもいいと思いました。		1
42	この憲章に賛成。 なぜなら、実際保育士さんが同じようなことを保育園や幼稚園で行っています。そのため、子供や大人が親しみやすくあたたかい街になると思う。		1
43	自分も、学校の帰り道に、近所の大人の方から、「おかえり」「こんにちは」と笑顔で声をかけてもらった時は、すごく良い気持ちになるので、にこにこスイッチという取り組みはとても良いなと思いました。		1
44	大人から見た時にも子供に対してよく考えていると思われるような文章でとても良いと思った。		1
45	大事な言葉がつまっていていいと思った。		1
46	笑顔があふれる市にするには、どのような行動をするかで決まる。こどものためであり、自分のためであるというところがとても良いと思う。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
47	とてもいいと思いました。 自分が小さいころ、大人はやはり怖いというイメージが強かったので、大人から、よりそってもらえるとすごくうれしなと思ったからです。		1
48	北九州市の子ども中心の政策として大人が子どもに寄りそった内容でいいと思いました。 市全体で子どもの成長をやさしく見守っていただけたいなと思いました。		1
49	大人が子どもに優しく、笑顔とやさしさであふれる北九州市になってほしい。		1
50	北九州市が子どもの育ちに目を向けてくださりありがたい。		1
51	子どもの周りだけに頼らず常にこの5つのアクションをしていくべきだと思う。		1
52	子ども・大人でも平等に扱い、市の様々な人が楽しく生活できるような市になりそうだと思った。		1
53	北九州市が「にこにこスイッチ！」であったことのようにみんながやさしく、明るい市になったらいいなと思った。		1

54	「にこにこスイッチ」や「愛情」など自分たちが今から、身近にできてみんながにこにこ、楽しい町になったらいいと思う。		1	
55	話を聞いて、自分がされたらうれしいので、もっと広まっていったらいいなと思った。		1	
56	作ったところで大人は変わってくれるのか、本当によりよくなるかといった心配がある。少しでも多くの北九州市民の人がこれらを意識し、素敵で北九州市を作れることを願っている。		1	
57	「共感する」ことで相手に寄り添って相手も安心できると思った。		1	
58	これが実際に北九州市のなかで市民のみんながその5つのアクションをするための具体的なルールなどがあるといいと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、子どもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1	
59	このアクションを実行するだけではないと思うから、その行動を北九州市の人たちに広めていくことが大切であると思った。		1	
60	みんなで笑顔の輪を広げることで心の余裕ができたり、人に優しくできるので笑顔を広げていきたいと思った。		1	
61	学校での教育を工夫するべき。環境が変わっていく中で、様々なことに取り組んでいく必要がある。		1	
62	「子ども憲章」を通して、全ての人子どもと子育てに関心を持ち、子どもを含むすべての人が自己実現しながら社会に参画していけるまちづくりに期待する。		1	
<b>タイトル 『北九州市子どもまんなか「にこにこスイッチ！」』</b>				
63	名称を『子どもまんなかスイッチ』などにしてはどうでしょうか。			2
64	子供のためになるので、良いと思った。「にこにこスイッチ」が名前が1つだけ子供ぽいので、他のような名前にした方が良いと思った。	多くの人が親しみやすいように「にこにこスイッチ」という名称にしていますが、ご意見を踏まえ、5つのアクションにつながるような表現に修正します。	2	
65	この言葉を聞くとこの5つのアクションを思い出すような題名がいいなと思った。		2	
66	みんなが笑顔になりそうなタイトルだと思う。		1	
67	「にこにこスイッチ」の名前がいい。	わかりやすく、親しみやすいことばで、具体的な行動につなげられるよう、取組を進めてまいります。	1	
68	「にこにこスイッチ」が、名前から「にこにこ」が伝わってきたので、自分もスイッチを入れよう！って思えるから素敵だなと思った。		1	

69	「ニコニコスイッチ！」というネーミングがとてもいいと思った。	わかりやすく、親しみやすいことばで、具体的な行動につなげられるよう、取組を進めてまいります。	1
70	名前もわかりやすいので、いいと思います。		1
71	北九州市こどもまんなか「ニコニコスイッチ！」について、小さな子から大人の人まで理解しやすいようなタイトルでよいなと思いました。		1
72	「にこにこスイッチ」は、かんたんな名前だからおぼえやすそう！		1
73	にこにこスッチというタイトルも覚えやすい		1
74	北九州市こどもまんなか「にこにこスイッチ！」のスイッチは、おぼえやすくいいですね。		1
75	誰にでも伝わるように「にこにこスイッチ」という名前にしている所がいいと思いました。		1
<b>前文</b>			
76	「このアクションが、みんなに広がって」を「このアクションが、市民憲章とともに、みんなに広がって」とする。	「市民憲章」は「市民がお互いに守る市民生活のルール」とされており、一方、素案は、大人が自分自身に問いかけて、具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。それぞれ、性格が異なるものであることから並記は行いませんが、「みんなのまちを住みよい幸せなまちにする」という趣旨は同様であることから、市民憲章の趣旨も踏まえて周知に取り組んでまいります。	4
77	子ども憲章がどうして今必要とされているのか、をしっかりと前文で明記したほうが良い。	素案は、自分自身に問いかけるような表現にしており、前文も話しかけるような書き方としています。今後、周知を図る上では、ご意見も参考に、どうして今必要とされているかといったことがわかりやすく伝わるよう工夫してまいります。	4
<b>アクション</b>			
<b>アクション全体</b>			
78	1から5に加えて、最初に、大人はこどもに「見られてる」を入れると良い。	素案は、大人が、自分自身に問いかけ、具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。こうしたことから、「子どもに見られているからする」というのではなく、前向きな気持ちで行動につなげていきたいと考えています。	4
79	5つのアクションはいずれも大人向けであるにも関わらず、子ども向けの言葉を選択しているところに違和感がある。	素案は、小さなこどもにも理解できるよう、やさしい言葉で編成をしています。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3



80	アクションの内容が一方通行な印象。子育てスイッチならよいと思う。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。一人ひとりが行動を実践することで、地域全体でこどもを育てる、思いやりのあるまちになると考えます。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
81	アクションの内容が抽象的で具体的に何をしたら良いのかイメージが掴めない。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指していることから、ご意見も踏まえ、市民の皆さまに分かりやすく伝わるよう工夫してまいります。	3
82	5つのアクションについては、素案説明資料ではイメージできる内容が添えられているが、素案だと短いフレーズで書かれていて真意が伝わりにくく感じた。文字量は増えるが、もう少し言葉を加えるなど行ったほうが、初めて見る人、聞く人、行動を起こそうとする人には伝わるのではないかと思う。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、日常生活で思い出ししてもらいやすいよう短いフレーズで編成しています。一方で、真意が伝わらなければ具体的な行動にもつながらないことから、ご意見も踏まえ、周知を行う際は趣旨が伝わるよう、イラストなども活用しつつ、丁寧な解説に努めて、市民の皆さまに分かりやすく伝わるよう工夫してまいります。	3
83	五・七・五にするともっとリズムがうまれると思った。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、日常生活で思い出しただけのよう、広く浸透することが重要であると考えています。伝えたい内容に適した言葉を選択しており、リズムにあわせた言葉をつくることは難しいと考えますが、市民の皆さまに浸透し、覚えやすいものとなるよう、ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
84	1つ1つのアクションにキーワードを入れていて何をしたらいいのかがすぐ分かった。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
85	キーワードで考えられるから覚えやすくて分かりやすい。子どもに伝わりやすい。		1
86	ひとつひとつのアクションがシンプルで分かりやすい。		1
87	ポイントとなる言葉があって分かりやすい。		1
88	言葉1つ1つが簡単で誰でも想像しやすい。		1
89	軸となる言葉があって分かりやすい		1
90	誰でもやりやすいことをかいているところが良いなと思った。		1

91	「にこにこスイッチ！」の5つのアクションはいいと思った。		1
92	この5つのアクションを見て、こどもにあたたかい気持ちを持って接するのは、大切だなと思った。		1
93	5つのアクションが良い。		1
94	5つすべてとても良いと思う。		1
95	1～5番目までとてもいいと思った。		1
96	1～5全て笑顔が絶えない北九州市になると思う。		1
97	5つの魔法の言葉はいい案だと思う。		1
98	3, 4, 5のアクションは、子どもたちが安心して大人と話せる取り組みだと思いました。		1
99	どれも、すごくすてきな言葉だなと思った。		1
100	「にこにこスイッチ」に5つの言葉で人にやさしく接することができる言葉だなと思った。		1
101	3や4が、私は特にいいなと思った。 (心があたたかくなるので)	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
102	2～5は、すごい良いと思った。		1
103	1、3、4、5には賛成		1
104	「同じ目線」でや「愛情いちばん」などのアクションをちょっとずつでも一人一人が心がけていけば、北九州市がいい方向に向かうんじゃないのかなと思った。		1
105	内容もとても覚えやすいのでいいと思った。		1
106	誰もが始めやすいアクションだと思う。		1
107	とても良いアクションだと思う。子供にも分かりやすく、日常的にも使いやすい。よりよいまちづくりのため、私たち中学生も小学生に向けて実行してみようと思った。		1
108	それぞれの文章をリズムよく構成している部分が、親しみやすく良いと思った。		1
109	話すときに同じ目線や笑顔を意識することなど、子どもに対して、すぐにできることが書いていたので、いいと思った。		1
110	この5つのアクションを通じて、笑顔が絶えない北九州市になれば良いと思いました。		1
111	この5つのアクションを見て北九州市がこのような街になることはよいと思った。		1

アクション1 こどもがいたら、みんなで「にこにこスイッチ」オン！

112	こどもといっしょに、みんなで「にこにこスイッチ」オン！とする。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。大人が笑顔でいることで、こどもの笑顔にもつながるよう、取組を進めてまいります。	4
113	「こどもがいたら」は不要。こどもは大人をしっかり見ている。	素案は、大人が、自分自身に問いかけ、具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。大人が、自身に問いかけるきっかけの1つとして、「こどもがいたら」という言葉を入れています。「こどもがいたら」という言葉によって、こどもは大人をしっかり見ている、ということに改めて意識することにもつながると考えます。	4
114	『こどもがいたら、みんなで「にこにこスイッチ」オン！』が少し怖いなと思った。地域の中でも、知らない人がいるので、会った時に「にこ」っとされると、不審者と勘違いされるかもしれないと思った。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指していますが、こどもに対して、大人を受け入れることや見返りとなる行動を求めるということは考えていません。笑顔の輪が広がることで、地域との関わりや安心感にもつながると考えますが、一方で、こどもの安心・安全の確保も重要であることから、ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
115	なぜ、こどもの前だけなのだろうか。こどもがいない所での争いが、こどもにも影響を与えるので、こどもがいない所でもにこにこできる社会が、結果としてこどもの前「でも」にこにこできる社会だと考える。「子どもがいれば、大人は自然に「にこにこスイッチ」オン！」とする。	素案は、大人が、自分自身に問いかけ、具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。大人が、自身に問いかけるきっかけの1つとして、「こどもがいたら」という言葉をいれています。笑顔で接することは、こどもだけでなく、大人同士でも優しい気持ちになることから、多くの方が実行して、自然と笑顔が生まれるよう取組を進めてまいります。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	4
116	「こどもがいたら」では、「子どもがいる時だけ」と感じられる。		3
117	「にこにこスイッチ」の言葉は良い。		1
118	「ニコニコスイッチ」という言葉が分かりやすくて親しみやすいので、とても良いと思いました。		1
119	「ニコニコスイッチ」という表現がやわらかいし、わかりやすくて、良い表現だと思います。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
120	『にこにこスイッチ』とても良いと思いました。北九州市にすんでいる、町の人々がえがおになるための名前と行動だからステキだなと思いました		1

121	「ニコニコスイッチ」おぼえやすくていいと思う。		1
122	にこにこスイッチ分かりやすいし、とても覚えやすくていいと思いました。		1
123	「にこにこスイッチ」という言葉は印象に残りやすく、ひとめ見ただけで、分かりやすく、とても良い言葉だと思いました。		1
124	「にこにこスイッチ」は、大人も子どもも、「スイッチ」という、身近なものが入っているのでとてもおぼえやすいと思います。		1
125	私のまわりにはやさしい人がいるけどほかのところにいるかもしれないので「にこにこスイッチ」はいいとおもいました。		1
126	にこにこスイッチがいいとおもいましたなぜなら、子どもも、わかりやすくにこにこしたら子どもみんなもにこにこするからいいと思いました。		1
127	「にこにこスイッチ」という言葉は覚えやすくて小さな子供も分かりやすいと思いました。		1
128	「にこにこスイッチ」が子供にもわかりやすく伝わると思うので良いと思いました。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、 こどもから大人まで笑顔につながるよう 取組を進めてまいります。	1
129	にこにこスイッチという言葉は、子供～大人までが覚えやすいと思ったので、とてもいいなと改めて思いました。		1
130	「にこにこスイッチ」というのは、1年生とか、小さい子も覚えやすいので、いいなと思いました。		1
131	子どもでも理解できる「にこにこ」などを用いることでより、気軽に親しめるのではないかと思いました。		1
132	にこにこスイッチについては、とてもいいアイデアだと思います。一人がニコニコしたらみんなも気持ちが悪くなると思うからです。		1
133	大人や子どもが毎日、楽しくなれるから「にこにこスイッチ」は、いいと思いました。		1
134	「にこにこスイッチ」を入れたら子どもだけじゃなくてみんな笑顔になってくれると思う。子どもも大人も関係なく仲良くなれると思う。		1
135	「にこにこスイッチ」オン！がいいと思った。みんながにこにこになれる感じがいいと思ったからです。		1

136	「こどもがいたら、みんなで『にこにこスイッチ』オン!」がとてもいいなと思った。大人の人が怖い顔をしていたらいやだから「にこにこスイッチ」という言葉があつてこどもでも大人でもわかりやすいのでいいなと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、こどもから大人まで笑顔につながるよう取組を進めてまいります。	1
137	「ニコニコスイッチ」はほんとはあるのかもしれない。なぜなら僕のお父さんがわらっていると、僕も笑える。「ニコニコスイッチ」とはとてもすばらしい。		1
138	「ニコニコスイッチ」がいい考えだと思った。僕も親がニコニコしていると、ホッとするから。		1
139	子どもは、大人の笑顔を見ると、とても嬉しく、安心するので良いと思う。		1
140	にこにこスイッチは、こどもは話している人やまわりの人が笑っていたら笑うのでとても良いことだなと思った。		1
141	「にこにこスイッチ」という言葉がとても印象に残った。		1
142	「にこにこスイッチ」をオンにするのが良い。		1
143	大人がにこにこしていたらこっちもたのしくにこにこすると思った。		1
144	にこにこスイッチで笑顔にできるといいなと思った。		1
<b>アクション2 こどもとは、大人がひざをかがめて「同じ目線」で</b>			
145	こどもと関わる時は、「同じ目線」で、とする。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、「膝をかがめて」は、同じ目線になる行動を起こすのは大人であることを象徴する言葉として入れています。違う視点から意見を交わすにしても、対等な関係として意見を尊重するという姿勢をもつことが大切だと考えています。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	4
146	「大人がひざをかがめて」は不要。大事なものは、常に対等であること。「同じ目線」とは、そういうこと。		4
147	「大人がひざをかがめて」という部分について、少し引っかかりを覚えた。「同じ目線」はとても嬉しいし、こどもとしても大人と同じ目線で在りたいが、大人にアクションをしてもらって同じ目線になるだけでなく、私たちこどもの側からもアクションを起こして同じ目線になりたいと思う。		3
148	ここでの対象は何歳までを想定しているのか。特に「ひざをかがめて」という表現。本来「目線」とは、見る方向や視線のことではないのか。		3
149	「同じ目線」も大事だけど、違う視点からみても大事だと思った。		3

150	アクション2は、「大人が」はなくてもいいのではないかな。前の文章で「大人になってできることはなんだろう」とあるので、アクションは全部、「大人が」するものではないかな？	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しています。ご意見を踏まえ、表現を修正します。	2
151	前文を読むと、5つのアクションは全部、大人がするものと思っていたが、「大人がひざをかがめて」と、ここだけ「大人が」が入っているので、前文の内容とずれている感じがする。		2
152	「同じ目線」とは、物理的なものと心理的なものの2つが必要だと考える。姿勢を低くして物理的には目線だけを合わせても、心理的目線を合わせなければそれは「同じ目線」ではないと考える。また、「ひざをかがめて」と入ることで、ひざをかがめる必要のない背丈の子どもがないがしろになるのではと考える。「大人たち、子どもの目に映る自分は大丈夫？」とする。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、「膝をかがめて」は、同じ目線になる行動を起こすのは大人であることを象徴する言葉として入れています。ご意見のとおり、「同じ目線」は、物理的なものと心理的なものいずれも必要だと考えています。	4
153	「大人がひざをかがめて」は、必ずしもそうとは限らないと思うのであえて必要なのではないだろうか。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指しており、「膝をかがめて」は、同じ目線になる行動を起こすのは大人であることを象徴する言葉として入れています。	4
154	同じ目線で話すというのが、こどものことをよく考えていて良い。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、「こどもの視点を大切にする」、「こどもを社会を構成する存在として尊重する」という、「こどもまんなか社会」の実現にむけて取組を進めてまいります。	1
155	こどもとは同じ目線で話すというのとはとも良い。		1
156	特に2つ目がいいと思った。		1
157	2番目「大人がこどもと同じ目線で」が特に良い。		1
158	大人が子どもと同じ目線で考えることがいいと思った。		1
159	「こどもとは、大人がひざをかがめて『同じ目線』で」というアクションはできていない人も多いからすごくいい案だと思った。		1
160	こどもとは大人がひざをかがめて「同じ目線」でがいいと思った。理由は大人って背が高いので見下されている感じがし、私もいやになったことがあったからです。だからこどもとは大人がひざをかがめて同じ目線がいいと思った。		1
161	「同じ目線」で「大人の方が上じゃない」というのを伝えてくれていいなと思う。		1

162	「同じ目線」とかを聞いたら、みんな子どもたちは安心できそうでよさそうだなと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、「こどもの視点を大切にする」、「こどもを社会を構成する存在として尊重する」という、「こどもまんなか社会」の実現にむけて取組を進めてまいります。	1
163	「ひざをかがめて」など具体的に話し、わかりやすくなっているところが良いなと思った。		1
164	こどもをこれからの社会を作っていく一員として、同じ目線で接するという考え方がとてもいいと思った。		1
165	「こどもとは、大人がひざをかがめて「同じ目線」で」がとてもいいと思った。こどもと大人の目線はちがうから、合わせるという所がいいと思う。		1
166	同じ目線に立ってくれと、自分と相手が対等になったようで、こどもが中心になってよかった。		1
167	「同じ目線」というのは、子どもも目をあわせて、安心して話せると思う。		1
168	2番の「同じ目線」がいい。子どもと大人は同じ。		1
169	大人と子どもは、同じ目線でみてもいいとは、おもってもいなかったのでびっくりした。		1
170	大人と対等な立場で社会を変えることが可能となっている点がいい。		1
171	子どもと同じ目線になって接することが1番よいと考えた。そもそも大人が膝をかがめて子どもと同じ目線になるだけでなく、大人が子どもと同じことを、1度体験してみたり、子どもの気持ちを考える意味で「同じ目線」が良いと思った。		1
172	一番いいと感じたのは「同じ目線」でと言う言葉で子供と同じ目線になることで、子供にしか分からないことが大人にも同じように伝わると思ったから。		1
173	同じ目線になることも子どもと接していくためには必要だなと思った。		1
174	子供と大人を同じ目線にすることによって子供が大人に対して話しやすくなると思った。		1
175	こどもに大人の好印象な部分を伝えるために、「同じ目線」でと言っている所がいいと思った。		1
176	大人もこどもと同じ目線などで話すとその子の顔などが見えてこどももすごく話しやすくなりこにこスイッチ！はすごくいいと思った。	1	

アクション3 こどもを諭(さと)すときには「愛情いちばん」

177	こどもと過ごす時は、「愛情いっぱい、寄りそって」とする。	「諭す」には、「教えみちびく」という意味のほか、「よくわかるようにやさしく言う」という意味もあり、また、子どもが成長する過程では、大人が、良いこと・悪いことをきちんと示すことも必要だと考えています。「諭す」という言葉の意味が伝わりづらいところもあるため、表現については、ご意見も参考にできるだけわかりやすくなるようにいたします。	2
178	「諭(さと)す」とはおこがましい。こどもと話したいときは、または、こどもを知りたいときは、でいいのではないか。		2
179	「諭す」とはどんな場面をイメージしているのか。		3
180	「愛情」があれば、指導してもよいと解釈されるのではないか。		3
181	「こどもを諭すときはー。」の言葉は意味が難しいので少しやわらかい表現に変えるといいのではないかと思った。		2
182	「諭(さと)す」という言葉が難しいように感じた。	「諭す」には、「教えみちびく」という意味のほか、「よくわかるようにやさしく言う」という意味もあり、また、子どもが成長する過程では、大人が、良いこと・悪いことをきちんと示すことも必要だと考えています。「諭す」という言葉の意味が伝わりづらいところもあるため、表現については、ご意見も参考にできるだけわかりやすくなるようにいたします。	2
183	時には叱る必要があるという前提の内容だと感じる。「愛情を持っていれば」叱ることは「諭す」ことだと解釈でき、結果「しつけのために、虐待した」を肯定することに繋がるのではないかと考える。「子どもにわかしてもらう前に、子どもの話を聞いているかしら?私」とする。		2
184	「諭す」というと「言いくるめる」というニュアンスに感じられ違和感を感じる。「愛情いちばんで、いっぱいの言葉のシャワーを」などはどうか。		2
185	まわりにただおこるんじゃなくてみんなのことを思っておこる人をにこにこスイッチをオンにしたらいいと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、思いやりのあふれる温かい地域で子どもたちが育まれるよう取組を進めてまいります。	1
186	愛情いちばんの言葉は良いと思う。		1
187	こどもを諭すときには「愛情いちばん」というのが良い。		1
188	3番の愛情いちばんが良いと思った。		1
189	おこるだけでなく愛というのが良い。		1
190	「こどもを諭すときには愛情いちばん」という言葉が大切だと思った。感情まかせに叱るのではなく、子供の安全やこれからのことを思って叱ることが大切だと思った。		1
191	大人から愛情をたくさんもらうことで、子どもは、成長し、いい人になるから良いと思う。		1



アクション4 子育ては時に大変なことも。やさしく伝える「大丈夫」

192	子育ては時に大変なことも。みんなで支え合おう「大丈夫」とする。	「大丈夫」ということを伝えるには、言葉にするだけでなく、視線を送ったり、行動で示したり、様々な方法があると考えています。「支え合う」ことを、自然に手を貸して示したり、「わかっているよ」ということをうなづくことで示したりすることも、「大丈夫だよ」と相手を受け止め、受け入れる気持ちからつながってくると考えます。一人一人が行動につなげていただけるよう、ご意見も踏まえて、取組を進めてまいります。	4
193	「大丈夫」とは安易に言われたくない。こどもを育てているときは、ほっとする一言「わかっているよ」を。		4
194	子どもから学ぶこと、子どもの感性やつがやきに感心させられることもたくさんあるので、子ども憲章で子育てを「大変」と言ってしまっているのかなと思った。	子育てをしていて、子どもから学ぶことや感心することもたくさんあると思いますが、楽しいことだけでなく、大変な時や辛いことも起こりうると考えています。まさに大変な瞬間にいる当事者に、「時には大変なこともありますよね」という共感を示すという趣旨で「大変」という言葉を使っています。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考とさせていただきます。	3
195	「子育ては子どもとの二人三脚。子どもを信じて一歩を出そう」とする。	素案は、地域社会全体でこどもに関わり、見守り、育てるという気運醸成を図るものと考えています。「二人三脚」という言葉からは、対象がより限定される印象も受けますが、「一歩を出そう」という言葉は、大人が具体的な行動を起こす「合言葉」という素案の趣旨に沿ったものと考えますので、ご意見も踏まえて、行動の実践が広がるよう取り組んでいきます。	4
196	「時に」は不要ではないか。また、【やさしく伝える「大丈夫」】では、周囲の人が「大丈夫？」と言っているのか、子育てをしている本人が言っているのか、分かりにくく感じた。また、「大丈夫？」と手を差し伸べることももちろん大切だが、大変な思いをしている人が「助けて」と気軽に支援を求められることも大切なのではないかと感じた。	「大丈夫」ということを、言葉に発して伝えるだけでなく、視線を送ったり、行動で示したり、様々な伝え方があり、また、周囲のやさしさが伝わることで、「助けて」と周りに求めやすくなることにつながると考えます。ご意見については、今後、市民の皆さまに説明する際の参考にさせていただきます。	3
197	子育てが大変な人にも「大丈夫」と声をかけるのが良いと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、思いやりのあふれる温かい地域で子どもたちが育まれるよう取組を進めてまいります。	1
198	「大丈夫」ということが私はすごく素敵な言葉だと思った。		1
199	子どももだけど、子育てをしている大人の方にも「大丈夫」という言葉は、合っていると思った。		1
200	やさしく伝えるのがどうしたらいいのかを少し分かった。		1

201	「大丈夫」という言葉でいろんな人を安心したらいいと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、思いやりのあふれる温かい地域となるよう取組を進めてまいります。	1
202	子どもだけではなく、子育てのお母さんに向けて、「大丈夫」と言うのがいいと思った。		1
203	子育てが大変で困っている人に、大丈夫とやさしく伝えたと子育てしている人が安心すると思うので、良いと思う。		1
<b>アクション5 こどもの周りには、いつもたくさんの「ありがとう」</b>			
204	アクション5は、「ありがとう」と体言止めにするよりも、今後の動きにつなげる余韻を生み出すよう、「を」などの助詞があった方がよいのではないか。	ご意見を踏まえ、表現を修正します。	2
205	「いつもたくさんの『ありがとう』」で終わるのではなく、最後に「を」があった方が、読んだ人が、これから起こす行動の幅が広がるのではないか（例えば、いつもたくさんのありがとう「をあふれさせていこう」とか、ありがとう「をみんなで広げていこう」とか）		2
206	こどもに伝えよう、たくさんの「ありがとう」とする。	素案は、こどもと接する際に、大人が具体的な行動を起こすための「合言葉」となることを目指していますが、「ありがとう」という言葉は、大人でも、こどもでも、言われると嬉しいと感じる言葉だと考えます。このため、日ごろから、こどもの周りで「ありがとう」という言葉がかわされるということを示した表現としています。ご意見も踏まえて、行動の実践が広がるよう取り組んでいきます。	4
207	「いつも」は不要。いつもは無理でも、たくさんは可能だから。		4
208	1と同様、こどもがいない所でも「ありがとう」が溢れなければ、こどもの周りにも「ありがとう」は溢れない「子どもがつなぐ大人の輪」とする。		4
209	こどもの周りで「ありがとう」を伝え合うのではなく、こどもがいる・いないに関わらず感謝を伝え合う人間関係の中で、こどもに育てて欲しいし、こどもに対してもたくさんの「ありがとう」を伝えたい。		3
210	たくさんのありがとうがあるのが良い。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、「ありがとう」という言葉がこどもの周りで交わされる温かい地域となるよう取組を進めてまいります。	1
211	こどもの周りには、いつもたくさんの「ありがとう」が特に良いなと思った。ありがとうと言ってもらえたら笑顔になれると思ったので良い。		1
212	いつもたくさんの「ありがとう」というのがすごく素敵だと思う。ありがとうと言われると大人もこどもも喜ぶのがすごく良い。		1
213	こどもの周りには、いつもたくさんの「ありがとう」が一番すてきだと思った		1
214	5番がいいと思った。まわりにはありがとうと言わない人がたくさんいるけどありがとうと言えばみんながうれしいきもちになっていいと思った。		1

215	こどもの周りには、たくさんの「ありがとう」という言葉がいいと思った。	ご意見のとおり、多くの方が実行して、「ありがとう」という言葉がこどもの周りで交わされる温かい地域となるよう取組を進めてまいります。	1
216	自分の周りが笑顔だと、自然に笑顔になれるのでよかった。		1
217	自分も、大人だけじゃなくて、子供も周りのこどもたちにありがとうをたくさん言おうと思う。		1
<b>その他</b>			
218	北九州市では、こどもまんなかアクションのリレーシンポジウムも開催されているようだが、参加している「こども」は高校生のみなのだろうか。だとすればこども家庭庁が定義する「こども」とは違うのではないのだろうか。		5
219	子ども憲章検討懇話会に出席したい。		5